前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏 (法人	(法人にあっては名称) 住 (法人にあっては王たる事業所の所任地) 住 (法人にあっては王たる事業所の所任地)						上地)			
井原料	原精機株式会社					〒 715-0021				
名	名									
本票作成			T	総グノ	レーフ					
主たる業	種 =	分類 ュード	31 業種名:	輸送月	月機械器具製造	業				
事業の 概 要	自動	車部	品の製造							
県内の	番号	番号 工場等の名称				所 在 地				
	1	笠岡工場				笠岡	笠岡市茂平1234			
	2) 総社第二工場				総社	総社市久代1920-2			
主な	3					井原	井原市上出部町431-3			
工場等	4	総	 社工場			総社	上市真壁1500)		
特定事業	:者[7 (1)		500klL	以上 □ ②バス・	トラック100台	言、 タクシー250で	台以上 🗌 ③	 CO ₂ 換算3	,000t以上
の該当要			[場等の数		4 所		台数(②該			台)
		, -								
温室効果な	jス 基	美準 生		年度)	(平成		度排出量	目標年度(立		1 年度)
排出量		18, 864 t CO ₂				17, 68	17, 682 t CO ₂ 17, 921 t CO ₂			
	1	番号 工場等の名称					(平成 27)年度排出量			
	L	① 笠岡工場					2, 008 t CO ₂			
 主な工場	-	2	総社第二工場				9, 761 t CO ₂			
の排出量		③ 井原工場					132 t CO ₂			
		4	④ 総社工場				5, 781 t CO ₂			
										t CO ₂
										t CO ₂
	i	十画	朝間: 平	元成 2	7 年度	\sim	平成 31	年度 (5	箇年度)
削減目標	(の)		総排出量基準		7)年度削		目標削減		· 目標達	
達成状況	九		原単位基準	`	3. 1	%	5. 0	% ②達	成	□未達
)=		., , _ ,	気はみ間						
(原単位基の制建品標	:準	を 製品出荷数					原単位当たり排出量 基準年度 (27) 年度 目標年度			
の削減目標 選択してい	るる					0.5	0. 5751 0. 5571 0. 5463			
場合に記入	$^{)}$ 1	117.682t ÷ 31.738.2844尚=0.5571kg/荀 1					g CO ₂ /(個) kgCO ₂ /(個) kgCO ₂ /(個)			
(該当事業	き者の.	み記え	\)				-			
ベンチマー			象事業の名称		ベンチマーク	指標	関連数値	(平成 27	年度)	達成率等
指標の状	:況									
【削減状	:況の	自己	評価】				· 		·!	<u>-</u>

各種取組みの効果があり、基準が達成できている。 ただし、昨今の猛暑や、工場内の作業環境改善のために、空調機の増設やオイルミストコレクター 等、エネルギー使用設備が増加していることもあり、更なる改善を図るには課題点も散見される。 今後の計画としては、従来の運営方法自体の変更等、抜本的な改善も含め、生産状況等に左右されに くい恒久的な対策を増やしていく必要がある。

	,,		11	rt	
#	Ħ.	怔	47	朏	l '

各工場のエネルギー管理担当を中心に全社的な省エネ活動・教育計画・外部研修情報の収集等を行う事を目的とした省エネ推進委員会を毎月開催し、現状に則した取組みを行える体制を強化している。

【目標削減率達成のために実施	歯した措置及び今後の取組】
工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
	◆H27年度実施内容
笠岡工場	自家用発電機の再稼働によるピークカット
井原工場・笠岡工場・総社第二 工場	エアー漏れ調査・修理
笠岡工場・総社第二工場	油圧ポンプの自動停止化(新規設備導入時)
	◆今後の予定
笠岡工場	エアー使用量が少ない期間のコンプレッサー停止(土日、交代制勤務間の時間帯)
井原工場	屋根二重化による場内温度上昇の抑制
井原工場・笠岡工場・総社第二 工場	エアー使用設備の個別管理化 エアー配管の効率化 油圧ポンプの停止時間増(一部ポンプの自動停止化)

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内で の取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内で の取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】